



平成16年5月号 No.457

広報かなぎ



どれがいいかなあ～。



母の日に「いつもありがとう」

5月9日、町内花屋にてカーネーションを買う姉妹。

町の花



さくら

町の鳥



ひばり

町の木



ひば

北の春に酔いしれる

金木さくらまつりが四月二十九日から五月五日までの七日間にわたり芦野公園で開催され、県内外から大勢の観光客が訪れ、期間中約十五万二千人の花見客は可憐なソメイヨシノに魅了されました。

桜前線の北上が駆け足でやってきて、早々と開花宣言が出され、心配された桜の花でしたが、開会式の二十九日は素晴らしい満開の桜となり、鳴海義男町長は「事故のない楽しいさくらまつりにしましょう」とあいさつ。近隣市町村長、来賓者によるテープカットで、日本さくら名所百選にふさわしい開幕を迎えました。



金木中学校・金木南中学校
ブラスバンド演奏会



かなぎさくらまつり開幕を告げるテープカット…。

まつり期間中、芦野湖でボート乗りを楽しむ家族連れや吊り橋・浮橋を体験する観光客。桜の下で敷物を広げて賑やかに宴会する団体客。出店でゲームや肝試しでお化け屋敷へ入る子供たちなど桜祭りを存分に過ごしていました。

歌謡ショー、カラオケ大会などのイベントには大勢の人たちで賑わい、まつり協賛スポーツ大会では参加選手が熱戦を演じ、観客から力強い声援や大きな拍手が鳴り響いていました。



熱唱する岸千恵子さん



家族で、グループで…。



お客といっしょに…。



金木高校JRC
と防犯指導隊
の皆さま
おつかれさまでした。



さくらまつり協賛



★秋谷杯争奪兼西北五中学校庭球大会
【優勝】金木南中学校（男子団体）

★西北五小中学校相撲大会

- 中学の部団体
【優勝】金木中学校
- 中学の部個人・2年の部
【優勝】野上 怜(金木中)
- 中学の部個人・3年の部
【第2位】津島 祐希(金木中)
- 小学の部個人・4年の部
【第3位】石戸谷優宗(金木小)



★西北五中学校選抜卓球大会
【優勝】金木中学校（男子団体）

★西北五小中学校相撲大会
小学の部
個人・6年の部
【優勝】
白川 康靖(金木小)



★防犯少年野球大会
兼全日本学童野球
北郡予選
【優勝】
金木小学校

スポーツ大会上位入賞おめでとう

第16回 津軽三味線全日本金木大会

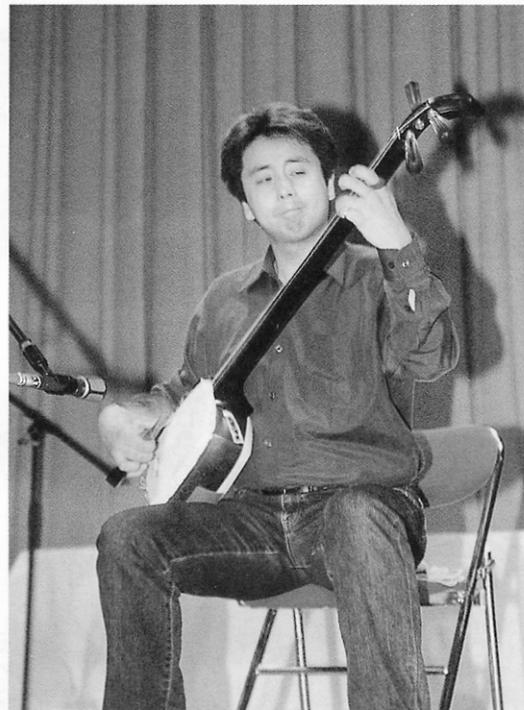
黒澤博幸さん (岩手県)

3連覇達成!!



審査員の皆さん

第十六回（平成十六年度）津軽三味線全日本金木大会は五月四日・五日、中央公民館で開催されました。津軽三味線発祥の地で開催されるこの大会には、全国各地から三百人余りの津軽三味線の名手が集まり、個人・団



仁太坊賞の黒澤博幸さん

体の部八部門に分かれ、自慢の腕を競いました。

注目の個人一般の部A級一位（仁太坊賞）は、岩手県の黒澤博幸さんが見事三連覇を達成しました。

今大会には地元金木高校三味線部も団体の部へ参加し、見事入賞しました。津軽三味線の普及とその歴史を学ぶことができた大会となりました。競技二日間は、朝早くから大勢の津軽三味線ファンが集まり、津軽三味線の力強さと繊細な旋律に酔いしれていました。

腕くらべ

聴けや仁太坊

俺が三味

大條 和雄

津軽三味線 もっともっと 見たい編



津軽三味線に酔いしれる観客



（団体・小中高生の部）
【入賞】 金木高校



競技前の練習風景



津軽三味線の先達者へ
献花する皆さん



ステキな笑顔は
上手に弾けたのかな？
（個人・中高生の部）



出番を待つ奏者
（個人・熟年の部）

3月定例会

3月10日からの一般質問で、秋田県内各自治体の合併問題、通年通行のバス利用法等について、町長らに質問しました。内容は次のとおりです。

川口 隆議員

◎農業問題について

「過去三年年の野菜の面積、数量はいくらか。」「米の売上げと今後の取り組みについて、県がつかえるロマンを奨励している市町村数と金木町の状況はどうか。全農本部が昨年からの青森グリーンライスに取り組み、化学肥料を減らした安全・安心指向の消費者のニーズに沿った米づくり対策をしているが金木町での対応はどうか。」「昨年は大冷害となり、農家の共済金が支払われたが、金木町は近隣市町村に比べ共済金が少ないと思う。町内でも格差があり、掛金を掛けても掛け金分も支払われないようなやり方では納得できないので、冷害の見方を大幅に見直しするよう共済組合に要請していただきたい。」

【答弁】

◆農林課長

「農業の面積と売上げですが、平成十二年度は四億二千九百万円、十三年度五億千八百九十四万四千円、十四年度四億六千四百六十七万八千円、十五年度は今現在で四億六千九百二十六万三千円となっております。全体的にナガイモとニンニクは、急激な伸びを示し、トマトは面積、金額ともに伸びがあります。野菜の普及拡大を図り、収量をあげて収入を得るよう取り組んでいます。」「米の販売額は、平成十二年度収量が十四万二千二百二十五俵で販売額十七億四千三百二十二万二千円、十三年度収量十三万三千二百二十九俵、販売額十八億五千九百九十二万二千円、十四年度収量十三万二千八百五十俵、十五年度は冷害により、収量六万八千五百六十五俵、販売額九億六千六百四十七万七千円となっております。県では、青森県米づくり改革計画を策定し、町でも地域水田営農ビジョンで産地づくりに取り組んで売れる米と多様化する需要と流通に対応する農作物の販売のため、三月末を目途にビジョンを策定中です。県が奨励しているつかえるロマンは金木町も含まれております。」

◆鳴海町長

「共済金については、過去にも金額が少ないとの声がありましたので、何度か共済組合に陳情し、ある程度は確保できた認識しております。しかし、神原、蒔田、藤枝の方が少額というのを聞いて驚いています。以前の冷害の際に私も同じ様なことに遭っており、少ない方には気の毒で申し訳ないと思いますし、今年もまた冷害がこないとも限らないので、評価の仕方等について強く共済組合に要望したいと思っております。」

◎町営住宅対策について

「町営住宅の入居希望者が二十名もあると聞いている。これを解消することにより、人口の増加や町の活性化につながると思います。また、金木町に家を建てて住みたいとの声をよく聞きます。土地を安く提供するとかいろいろの方法を講じて人口を増やすことが、景気対策にもなると思うので町長の考えを聞きたい。」

◆鳴海町長

「町営住宅は、現在四百二十戸あるが、うち八十二戸が老朽化により建て替えの必要がある。敷地はあるが補助事業の申請が認められず残念に思っている。今後の住宅新築または建て替えについて、常任委員会で検討していきたい。また、金木町に住みたいとの要望に対しては、土地を無償で提供するわけにはいかないが、生まれ故郷に帰りたいと思っている人に対し便宜を図りたいと思っております。」

◎町の景気対策について

「昨年の大冷害により、農家をじめ商工業も仕事がないと不況に悲鳴をあげている。町の予算も年々厳しくなっているが手をこまねいていては景気がよくなる。ここが町の頑張りどころと思うので、国・県に陳情し、仕事を増やしていく方法を考えて欲しい。町長の考えを聞きたい。」

【答弁】

◆鳴海町長

「町の景気対策ですが、全国的には景気が回復しているとの報道もありますが、東北地方では、まだ不況にあえいでいると思います。町としては町内の中小企業の方に、保証協会の保証料を支援、国の緊急地域雇用創出対策事業で芦野公園の景観保全事業を予定しており、少しでも雇用の場を確保したいと思っております。また斜陽館、三味線会館、芦野公園などを活かしながら、観光振興に努め地場産品の販売促進につなげたいと思います。」

◎観光客の受入対策について

「金木町には年間十万人以上の観光客が訪れているが、その割に物産館の売上げは増えていない。お客に對しての対応は万全なのか。受入体制を整え、物産館の売上げを伸ばす必要がある。また、大型バス二台程度の泊まれる施設があれば観光客が増え、町にお金も落ちると思います。駐車場もまだ狭いと思うが町長の考えを聞きたい。」

【答弁】

◆鳴海町長

「観光客の受入対策ですが、金木駅に併設した交流プラザにより利便性を図っているところです。私もホテルの構想を公約したひとりであり、物産館西側、下町から通れる土地を買収し、地吹雪を体験できる施設を建てて、二・三階をビジネスホテルにするという構想をもっておりますが、全然具体化していませんのでご理解いただきたい。今後、合併の枠組みもあるが、新町建設計画に載せたいと考えております。物産館は金木あすなろ商店会に委託しておりますが、悪い所を指摘し改善していきたいと思っております。」

◎屏風山内真部線について

「夏場は主要道路並みの通行量の多い路線で青森まで四十分行けるのは、仕事面、観光面でも重要道路と考えます。冬期間は閉鎖してありますが、雪のない時は早い時期の開通と早期に通年通行できる道路としたいと念願しているが町長の考えを聞きたい。」

【答弁】

◆鳴海町長

「屏風山内真部線の件ですが、私もこの道路を利用しています。しかし、現状の道路では、冬になったら通行は非常に厳しいと思います。関係町村で構成している促進協議会もあり、会議の都度通年通行をお願い

してはいますが、道路関係の財源は厳しくなっているのが現状です。議会には、金木川改修と屏風山内真部線の特別委員会もあるので政治力の結集を図り努力したい。春先の早期開通には、県の土木の方に早く通行できるようにお願いする。」

◆建設課長

「現在、県では冬期の閉鎖期間を短くするため、天候により閉鎖時期を決めている。通年通行の可能性については、冬期間の気象観測がなされ、実際青森側で除雪を行い、それにあわせて早期に開通できるようにしているとのことです。」

外崎 茂議員

◎市町村合併について

「合併対策として、金木、中里、小泊、市浦の二町二村による任意協議会を設置し、その後、法定協議会に移行後、市浦村の職員採用で合併の枠組み再検討問題が発端となり、今年一月に解散し合併対策は白紙となった。先般、每户配布した市町村合併検討資料によれば、五所川原と一緒にするよりないということが危惧されるのでそのことを聞きたい。前回の合併協議会に至る経緯等を踏まえ、住民投票すべきだと思つて町長の考えを聞きたい。また、単独立町、金木・中里・小泊の三町村、金木・五所川原の他、金木・中里・市浦・小泊の二町二村の再考はあるのかも併せて聞きたい。二町二村と五所川原、金木・青森、その他木造地区との枠組みも考えられると思うが町長の答弁をお願いする。」

【答弁】

◆鳴海町長

「国・県の財政改革で市町村合併は避けて通れないということで、四町村で法定協議会までいったところ、市浦村が職員採用する意見の相

違と大きな枠組みの再検討という意見が市浦村議会から出されたので、市浦は四町村でやる意思はないと思つた。合併特例法の期限まで一年少ししかなく、このまま進んだらまだまだ紛糾するのではないかと、とで白紙に戻った。今後の選挙はいろいろ想定されるが、実現性のないものを町民に与えても戸惑うのではないかと、四町村の復活ですが、議会や町民の賛同を得られるか私は考えられない。五所川原と四町村というのは、私は他町村のことよめり、後であえす金木と五所川原で進め、後で入ってくるのはおぼさかでないという事です。一回失敗した合併ですので、失敗は繰り返してはいけないので、今後何回となく全員協議会、町民懇談会を開催し、よりよい合併に取組んでいきたい。住民アンケートについては、今回の結果があまりに拮抗していたら考えざるを得ないと思つている。」

加藤 磐議員

◎町民所得の向上について

「金木町の町民所得は、県内で極めて低い位置にあります。県民全体の平均所得と比較し、約六十五万円の較差がございます。これをどう向上させていくのか、町長の見解と対応策を求めます。」

【答弁】

◆鳴海町長

「金木町の所得が非常に低いとの指摘ですが、金木町民が他町村で働いている所得が含まれていないので

低くなつていくとのことです。産業別の雇用は、平成十二年度の国勢調査によると、第一産業の農林業が約千人の就業、第二産業の建設・製造業が千五百人、商業・運輸・サービス業等の第三次産業が約二千五百人となっております。第一次産業がよくならないと、二・三次産業も大きな影響があると思いますので、パイプハウス等に援助し、野菜との複合経営をなくして農家の質の向上が進まないと思うので特段の力を入れたらと思います。第二次産業は、国の経済情勢が大きく影響します。行政としても力を貸し、援助もしなければと思います。しかし、本人の努力も必要で、公共事業だけに頼らず頑張つてほしい。第三次産業も同じで何とか町をよくしたいと思つてお願ひいたします。」

◎農地の耕作率等について

「金木町の基幹産業は第一次産業でその中身は農業です。冬の施設野菜やパイプハウス等に予算計上していることは評価します。農地の耕作率は、八十前後と聞いているが現在ある農地を有効的に使うために冬場にもハウスを導入すれば、耕作率百・百二十%となることも可能となります。現在耕作可能でありながら使われていない農地を農業者が利用できるシステムを作るか。支援するかに関して国・県の支援事業はないか。」

【答弁】

◆農林課長

「金木町は施設農業が盛んに行われており、パイプハウスの導入が増え、遊休農地が増えています。担当課として解消して行きたいと思つていますが、国の支援事業が全くなく、仮にあつたとしても町の持ち出しもなかなかできない状況です。最近、

農協では、県の農村開発公社と同じような合理化法人をつくり、五農の用地を借りて、それを農家に貸し出し、露地野菜をつくるという事業を進めたいとのことです。現状は施設農業を進めて、冬の農業を進めていき、農家の所得を上げていきたいと考えています。」

◆鳴海町長

「最近、非常に遊休地が多くなつたとみております。一度放置したら、復活するのに相当なお金がかかると聞いていますので、国の補助事業がないか、今一度担当課で調べ、遊休地を少なくし、農家の所得をあげるよう指導していきたい。」

◎合併問題について

「二町二村の合併協議会は残念な結果に終わったが、これに要した費用が三千七百四十二万七千円と発表されているが、人件費を含む四町村の総額と金木町が負担した割合を示してほしい。中里・小泊との連携について、どのような内容なのか示せる範囲でお願いしたい。今後、合併協議会が発足する場合はどのような委員構成でいくのか。住民による検討委員会をつくる考えはないのか。合併する前に、金木町として整備、強化すべきカラーはどのようなものと考えているか。住民投票は、アンケートの結果が拮抗した場合に考慮ということですが、拮抗した場合、二町一村、五所川原を含めた合併についてのデータ、町民の意思を提供し、その後住民投票すべきと考えるか、この点についてお聞きします。」

【答弁】

◆合併対策室長

「平成十四年四月の任意協議会から翌年一月までの法定協議会に要した経費は、総額三千七百四十二万七千円のうち国・県の補助金が二千五百万円で四町村の負担は千二百四十

二万七千円です。このうち金木町の負担金は、三百三十七万四千円。これが実質の負担金になります。」

◆鳴海町長

「青森での町村長会議のときに、市浦を除いて議長を入れて六人で会食した経緯がある。そのときはできるならば三つでやっていきたいという話があつた。また、中里も金木と歩調をとりたいとのことであつたが、金木が五所川原にいくとなつたらどうなるのかと思つている。合併協議会の構成ですが、枠組みが決まつた時点で全員協議会等で意見を聞きながら進めたいと思う。住民による検討委員会ですが、金木町でも三十人の検討委員会を開くことはあるが、いろいろな意見が出てまじりなかつた経緯もある。委員会よりも、町民の代表である議員の全員協議会での意見を尊重し、皆さんの意見も聞きますが、今は検討委員会をつくる気持ちはない。合併前に町として整備強化するのは、できるならば住宅の建て替え、下水道の整備、川倉小学校と金木小学校の統合、四つある保育所の統合を考えている。住民投票は、先ほど外崎茂議員にお話したとおりです。」

◎屏風山内真部線について

「屏風山内真部線の現在工事中の新金木橋付近、喜良市の富田橋付近の事業と今後の見直しと通年通行を前提とした場合、ネックとなつているカーブまたは、短縮すべき必要の箇所がどれくらいある距離になるのか。県庁所在地の青森市とできるだけ短い距離、短時間で一年中通して運行できる道路をつくるため、国、期成会、関係部署に働き掛けを強めていき、明確にこをやってもらえないか要望するものひとつの事業の進め方と思う。金木町独自で基金を設定し、調査・活動費にする考えは

【答弁】

◆鳴海町長

「屏風山内真部線に新たな基金設置とのことですが、今各基金を取り崩さなければ予算を組めない状態で、基金を設置する気は今のところございません。議員全員で構成している促進特別委員会もあるので、よりよい陳情ができるか後ほど皆さんと相談したいと思つています。」

◆建設課長

「今現在、屏風山内真部線で行われている工区は、喜良市富田橋付近の急カーブの緩和、それから山間部に入った所約八百メートルの幅員拡幅となつております。金木パイパスの関係では国道三三九号線の接続する交差点改良の工区です。県では、現在着工している工区の事業促進を図り、通年通行の可能性も調査しているとのことです。」

◎金木川改修等について

「金木川改修の見直しと跡地利用について現段階の見直しはどのようなか。」

【答弁】

◆建設課長

「金木川改修事業費は、平成十二年度に見直しされ、三十四億円になつている。平成十五年までの投資した事業費は、十八億三千七百万円で進捗率が五十四%となつている。重点区間の藤本スタンドから上流六百五十メートルの掘削工事等が平成十七年度完成予定です。その後、下流の旧十川との合流点まで二千六百十メートルですが、用地買収、掘削工事に入る予定です。平成二十四年度完成目標年度です。旧河川の整備は、県単独事業となるので知事が出した行政改革プランにより非常に厳しいものがあります。」

◎金木消防署の建て替えと救急救命

士について

「二町二村の合併協議会では、消防署の建て替え計画がなくなる旨の検討がされたようですが、この点についてお尋ねしたい。また、救急救命士は現在五名で、中里の本部に勤務しているとのことですが、消防本部には救急車が一台しかなくそこに五名いても宝の持ち腐れです。金木町の場合、年間三百五十回以上救急車が走っているので、救急救命士が配属されるよう進めていきたいと思うので町長の答弁を求めます。高規格の救急車と現在配備されている救急車の機能の違いとその救急車はいくらか。」

【答弁】

◆鳴海町長

「金木消防署の建て替え計画は確かにありましたが、今回の合併の白紙により、この計画は宙に浮いたと思います。救急救命士は、フル回転するには八名必要と聞いているが、配置については、消防署と協議し対応したい。」

◆総務課長

「高規格救急車は、人工呼吸器半自動除細動器等を装備している。救急救命士が医師の指示で車内において、適切な応急処置が行えるようになってきている。価格は普通救急車に比べて大体三倍程度となっている。」

◆金木病院の病院機能再編の見直しについて

「再編の中心である西北病院の新設がなくなれば、金木病院は今までの機能を回復することができの。CT検査について、隣接の西北病院では、十五分か二十分で結果が判明し処置を行っているが、金木の場合は平均一週間かかっている。」

つから検査結果が遅くなったのか。」

【答弁】

◆鳴海町長

「今まで再三関東・関西方面に医師募集しているが来てくれない。機能再編は、県でも重要三大施策のひとつとして本腰を入れてきているので是非実現してほしいと思っております。CT検査結果が遅いということですが、医師の業務であり、病院議会で話してみたいと思います。」

◎学校の統廃合について

「学校経営の目標をどこに置くのか。トレセンは老朽化しているが、冬期間のスポーツの拠点としてどのように改善していくのか。法務局跡地に図書館を建てる計画があるということですが、現状並びに構想について聞きたい。」

【答弁】

◆鳴海町長

「図書館については、伊藤忠吉・万寿子基金を活用し、以前から要望があった法務局跡地を利用したいと検討している。」

◆教育長

「学校の統廃合について、学校は近年児童生徒の急激な減少、校舎の老朽化と厳しい財政事情という環境にあります。今後の教育を考えた場合、適正な学校規模で運営が必要であり、将来的には、小学校二校、中学校一校が望ましいとの構想を持っている。総合計画として、川倉小学校と金木小学校を平成十七年四月、平成十八年度から十九年度で喜良市小学校と嘉瀬小学校、十九年度から二十年度で金木中と南中の統合という見通しです。学校経営の目標として、創意工夫を凝らし、特色のある教育・学校づくり、学校及び地域・家庭との連携を密にし、地域に根ざ

した教育、生きる力を育む学校教育の充実に努め、夢を育む学校教育を推進してほしいと各学校長に指示している。」

◆教育次長

「トレセンの改修は、床をはじめ全面改修過疎計画に載せているが、財政的に改善できないでいる。部分的な改修は毎年している。」

◎保育所の統合と将来構想について

「現在四つの保育所があり、町費の負担は多大と思う。統廃合の考えと民営化のことも踏まえて将来構想の説明をお願いします。川倉小学校の改修費約二億円、新規の場合概算で七億円と聞いているが、新規に保育所をつくる場合、警察署の跡地があるし、国からの補助も大きくなることも考えられるがいかがか。」

【答弁】

◆健康福祉課長

「保育所の統廃合と将来構想については、一昨年も議員全員協議会等で協議してきています。その結果、川倉小学校が金木小学校に統合された後、廃校舎を改築し、保育所を統合する計画で準備を進めています。十六年度で基本設計委託、十七年度補助事業として事業計画を提出予定です。住民説明会等については、通所バスの運行、保育所サービスの内容等計画ができた段階で担当常任委員会と協議し、住民説明会を開くよう町長の指示を受けています。」

◆鳴海町長

「川倉小学校と金木小学校が統合した場合、川倉の学区民から保育所がくるならということで統合が了解された経緯もあり、選挙前に議員全員がいいと言うことで進めている。」

秋元洋子議員

◎小中学校部活等へのバス貸し出しについて

「小中学校部活へのバス貸し出しや子供会活動に対するバスの支援、福祉バスの貸し出し状況を聞きたい。」

【答弁】

◆鳴海町長

「スクールバスの使用は、金木町スクールバス運営規則により、教育委員会が教育行政上必要な時や教育長が公益上必要と認めた場合は許可し貸し出ししている。ただし予算の範囲内で貸し出しとなっている。今後も学校と教育委員会の行事以外は許可しない方針で考えている。また、中体連の事業とかについては、学校にある派遣費で対応している。」

◆総務課長

「福祉バスの利用は、福祉バス利用に関する規則があり利用に制限がある。その制限以外の部分については貸し出ししている。ただし、教育委員会同様、予算もあるので考慮しながら貸し出ししている。教育委員会からの借用願いは、平成十四年度二件、十五年度五件の申し込みがあったが、子供会育成会の部分はありません。」

◎下水道の進展について

「先般の九月議会で下水道の一般質問したところ、町長も予算的な部分で難しさがやむやみとのことでしたのでその後下水道の進展はどうなっているのか。」

【答弁】

◆鳴海町長

「下水道の件ですが、金木町は県内でも下水道の普及率は低く、早く手をかけたというところで、平成十一年度から昨年の十二月まで蒔田・神原地区を終えました。引き続き喜

良市を予想し、説明会を開いたがひとりも集まらなく、現在に至っている。また、最近では工法がいろいろ変わってきており、町にとって一番望ましい下水道対策を検討中です。」

◆水道課長

「下水道関係について補足します。去年の五月頃、全員協議会で汚水処理構想を提案し、予想される年月は二十年で費用は町中で百億円、全体では二百億円となります。そういう巨費が必要となることから、県で十四年度から十五年にかけて見直しをしています。まだできていないので公表はできませんが、金木町の下水道対策がどうなるのか浄化槽の機能と比較し、資料を作成し、報告したいので時間をいただきたい。」

◎芦野公園のトイレについて

「芦野公園のトイレですが、四月に向けて桜まつりが始まり、トイレの悪臭がひどく大変だということ一般質問しましたが、その後津軽鉄道への交渉はどうなったのか。公園の桜の木に対する予算はどうなっているのか。花時計のところに花を植えるには予算的にいくらもかからないと思うがどうか。」

【答弁】

◆鳴海町長

「芦野公園のトイレは、津軽鉄道に確認したところ、花見前に撤去し、仮設のトイレを備え付けるとの返事がありました。」

◆企画課長

「桜の木の保全については、平成十六年度緊急地域雇用創出対策事業の補助金で桜及び松の保全対策と土壌改良を予定しています。花時計に花を植える計画ですが、厳しい予算ですので予算範囲内で桜まつりの前に植栽したいと考えています。」